

厚岸町におけるセイヨウオオマルハナバチの訪花量の把握と開花植物・在来マルハナバチ類への影響（概要版）

大阪市立自然史博物館 長谷川匡弘

現在北海道では、多くの地域で外来種であるセイヨウオオマルハナバチ（以下セイヨウ）が侵入し、もともと日本にいるマルハナバチと資源をめぐり競合することで在来のマルハナバチが減少していくこと等が懸念されています。セイヨウが侵入することで在来種のマルハナバチ類の個体数にどのような影響を与えるか調べるためには、できる限り定量的に調査することと、セイヨウの侵入前または侵入間もないタイミングでの在来マルハナバチの量を調べておく必要がありますが、このような調査はほとんどされていません。そこで本研究では、セイヨウの侵入初期段階と考えられる厚岸町内で、様々な環境（市街地周辺（湖北、湖南）、海岸草地、森林）におけるマルハナバチの生息密度を可能な限り量的に評価し、今後のモニタリング等調査の基礎データとすることを目的としました。調査はルートセンサスを行い、マルハナバチ類の「量」の目安として訪花頻度を用いることとしました。

調査の結果、セイヨウは、森林環境を除く市街地周辺、海岸草地で確認されました。特に湖北の市街地周辺では多く、畑地、湿地など様々な環境でセイヨウが確認出来ました。厚岸町内は在来のマルハナバチ類も豊富で、8種が確認されました。特にセイヨウとの競合による減少が懸念されているエゾオオマルハナバチ（以下、エゾオオ）は、確かにセイヨウの多い湖北地区では、比較的低い訪花頻度でした。しかし、エゾオオは森林でより個体数が増加し、分布の中心は市街地周辺というより、森林環境であると考えられます。さらに、セイヨウは森林への侵入が比較的少ないことが知られており、今回の調査でも森林環境では確認できませんでした。このことから、より広い視点で地域個体群を評価するのであれば、セイヨウがエゾオオに与える影響は少ないのではないかと考えています。

一方、1頭のみですが、原生的な自然を残す海岸草地でもセイヨウが確認されました。確認した場所ではアイヌヒメマルハナバチが生息していましたが、このような場所は厚岸町内では非常に限られます。今後は特に、侵入間もないと考えられる湖南地区や海岸草地での定期的なモニタリング調査を行い、セイヨウの個体数の増減を注意深く確認していくことが重要ではないかと考えています。